

## 小 論 文

### 注 意 事 項

- 1 問題用紙は、試験開始の合図があるまで開いてはいけません。
- 2 問題は、問 1 および問 2 の 2 問があります。必ず 2 問に答えなさい。なお、答案は解答用紙を用い、横書きとします。
- 3 問 1 および問 2 のいずれも、解答用紙の字数内でまとめなさい。
- 4 下書き用紙は、余白を含めて自由に使用してかまいません。試験終了後に、解答用紙とともに提出しなさい。
- 5 小論文の問題用紙は、試験終了後、持ち帰りなさい。

【問題】 次の二つの文章を読んで、後の問いに答えなさい。

A 日本の現代児童文学が成立したのは、佐藤さとる『だれも知らない小さな国』や、いぬいとみこ『木かげの家の小人たち』が刊行された1959年だと考えられる。

大正から昭和戦後にかけての「童話」は、詩的で象徴的なことばで心象風景を描くものだった。「童話」は、もっと散文的なことばで、子どもという存在の外側に広がっている状況（社会）を描く「現代児童文学」へと転換する。敗戦後の子どもの文学は、戦争や戦争を引き起こす社会を描かないわけにはいかなくなってしまうのだ。

詩のようなことばで書かれる童話は短編ばかりだが、散文性を獲得した現代児童文学は、子どもをめぐる事件を順序立てて書いていくから長編化する。ところが、<sup>(1)</sup>日本の国語教科書は、さまざまな種類の短い文章をあつめて編集される。教科書では児童文学が教材化されるけれど、小学6年生でも掲載できるのは8000字程度の短編だから、長編化した現代児童文学はのせられない。教科書という器に盛られるのは、宮沢賢治や新美南吉の童話や、あまんきみこのような現代の童話的な作品ということになる。

そして、児童文学と絵本はちがう。児童文学は、挿絵をはずして、ことばだけにしても読めるが、絵本は、見開きの絵が語り、ページをめくっていくことによって展開する。ことばは絵の手助けで、すぐれた文字なし絵本もたくさんある。教科書では、絵本から、ことばを抜き取ってページに流し込み、いくつかの絵を挿絵として配置する教材化が行われる。「スイミー」のように。絵本固有の表現のありかたを壊しているのだ。

子どもたちも教師も、図書館に行かないわけにはいかない。現代児童文学に会いに。絵本に会いに。

宮川健郎、「月刊国語教育研究」、日本国語教育学会、2015年7月、全文引用（一部改変）

B ジム・トレリスのことばを借りれば、読書指導とは、読書という“商品”を子どもたちに売り込むことである。

1960（昭和35）年台以降、テレビが一般家庭に普及することによって、時間という物理的な面からも、子どもたちの興味・関心という心理的な面からも、読書は大きな影響を受けた。さらに、1985（昭和60）年以降家庭用ゲーム機が普及することによって、読書は大きな被害を受けた。現在もインターネットや携帯電話の普及によって甚大な被害を受け続けている。それは時代の流れであり、文明の発展の帰結として受け入れてよいものであるのか。豊かな読書生活を消滅させてよいのか。豊かな読書生活の消滅は、豊かな人間性の消滅につながっていないのか。

読書指導の目標は、テレビや家庭用ゲーム機や携帯電話やパソコンといった売買可能な商品ではなく、読書という売買不可能な“商品”を子どもたちに売り込むことでなくてはならない。そのことによって、読書がもたらす人間的諸能力を子どもたちの内面に回復することである。それは、大村はまが提起するように、<sup>(2)</sup>自分の選んだ本を自分の選んだ読み方で読むことができる一人前の“読書人”を育てることである。  
余郷裕次、「新たな時代を拓く 小学校国語科教育研究」、学芸図書、2010年3月、一部引用（P.109～P.110）

問1 下線部(1)にある「日本の国語教科書」に対して、筆者はどのような問題意識を抱いていると考えられますか。文章中にある「教材化」という言葉を用いて180字以内で説明しなさい。(30点)

問2 下線部(2)「自分の選んだ本を自分の選んだ読み方で読むことができる一人前の“読書人”を育てる」とありますが、そのためには、国語科ではどのような学習指導を工夫すればよいと考えますか。二つの文章から読み取れる子どもたちの読書状況に対するあなたの認識を説明しながら、800字以内で述べなさい。(70点)